

第159回 青森県立図書館協議会 会議結果

1 日時・場所

平成30年6月26日（火） 13:30～15:00

青森市荒川字藤戸119-7 青森県立図書館 4階 集会室

2 出席者

《協議会委員》 敬称略10名

木村 文江	白木 佳乃	前田 敏子	須藤 紀子
玉川 玲子	斉藤 光政	瀧口 孝之	生島 美和
小笠原 秀樹	鈴木 麻理奈		

《図書館》

山田 勝規（図書館長） 外10名

3 会議の概要

- (1) 図書館長あいさつ
- (2) 委員及び県立図書館・近代文学館職員の紹介
- (3) 議長・副議長選出

議長に木村文江委員、副議長に須藤紀子委員を選出

- (4) 案件
 - ① 青森県立図書館の紹介について
 - ② 平成29年度組織目標に対する評価について
 - ③ 短期行動指針進捗状況について

《お問い合わせ先》 青森県立図書館 企画支援課 電話 017-739-4211

委員の主な意見・要望等

案件（１） 青森県立図書館の紹介について

質疑なし

案件（２） 平成２９年度組織目標に対する評価について

○委員

（５）関係機関との連携・協力のところで、県内１４大学の内１３大学とは協定が締結されているとのことだが、残りの１校はどこになるのか。

■県立図書館

東北女子短期大学とはまだ協定の締結には至っていない。

○委員

理由は何か。

■県立図書館

こちらからは働きかけを行ってはいるが、環境が整っていないとのこと。

○委員

３頁の「利用者・県民へのサービス」のところで目標値にレファレンス件数が入っているのは素晴らしいことだと思った。単に貸出件数ということではなく使える図書館という観点で評価をしようということで大変重要。

もう一つお聞きしたいのは、もう一つの目標値「利用資料数」というのは貸出件数とは異なるのか。

■県立図書館

貸出件数と同義。館内での利用もあり、それも含めての表現である。

○委員

館内での利用はどのような方法で把握するのか。

■県立図書館

館内閲覧の処理をしているのでそれで把握する。

○委員

レファレンスの件数がちょっとずつでも上がっているのは良いこと。このように様々

な評価指標で取組む事は良いことだと思うが、レファレンスの目標件数が下がっているのがちょっと気になる。

■県立図書館

これは、公共図書館の全国の傾向。ここ10年ぐらいの傾向だが、インターネット環境の整備に伴い、簡単に情報が手に入るということで件数が落ち込んでいる。ただ、逆に寄せられる質問の質が、難しいものになっている。

○委員

3頁の留意事項④にボランティアの記載があり、24年度から募集されているとのことだが人数の遷移はどうなっているか。

■県立図書館

具体的な数字を手元に用意していないが、1日当たり午前と午後に分けて3人ずつ募集している。

平成25年が21名、若干の増減があるが29年度は22名である。

○委員

その人数はずっと同じ方がやられているのか？

■県立図書館

結構入れ替えがあるので、毎年研修を行ってボランティアの方には安全に楽しくやってもらえるようにしている。

○委員

六戸町の視点からお話しする。担当者からの話だが、県立図書館の活動は非常に精力的に頑張ってもらっている。当町の町立図書館や小中学校は蔵書数も少なく、目標(3)の一括貸出や巡回訪問、(4)の市町村ブロック内巡回図書セット貸出サービスなどの取組は、非常に助かっている。特に幼稚園や保育園では高価な大型絵本が貸し出されるので、本当に助かっている。

加えて、困ったときに非常に丁寧に対応して頂けるということで、今後もこのような対応を継続し、充実してもらえれば我々のような小さなまちは大変助かる。

案件(3) 短期行動指針進捗状況について

○委員

今年明治150年で、来年は箱館戦争150年。どちらも結構、青森が深く関わっている。もしかしたら、博物館の領域かもしれないが、これらにちなんだ企画を考えているか。他県、特に薩長に関わる所はかなり積極的やっている。文学館ではどのように考えているか。

■県立図書館

文学館に関して言えば、今のところ特に考えてはいない。これから話を詰めていくと

ころ。近代化に関わることなので、もしかするとという事はある。まだこれから。

○委員

企画支援課にお伺いするが、北日本図書館大会というのはどのような組織で開催しているのか教えて欲しい。

■県立図書館

北海道、東北6県の7道県で組織する北日本図書館連盟という組織があり、この構成7道県で、持ち回りで開催している。また、研修の機会がもう一つあって、こちらも7年に一度回ってくるので、北日本図書館連盟の大会は7年に2回本県で開催されている。

○委員

元気な図書館が育つという目標になっているが、以前はどういう企画を行っていたか。

■県立図書館

短期行動指針は平成28年度から始まったものなので、それ以前は、運営方針の中で進めてきたところ。

○委員

5頁の「学校図書館アシスト事業プラス」で4回の訪問を行っているが、小中高のどこに行ったか教えて欲しい。

■県立図書館

この資料に載せている学校は、学校司書サポーターが配置されている県立学校の状況を示したもの。小学校、中学校に関しては要覧の15頁に実績を掲載している。昨年度は、小学校25校、中学校10校、高等学校16校、特別支援学校1校、その他3カ所である。

プログラムは二つに分かれていて、研修の講師としてお邪魔する場合と運営相談を受ける場合がある。

○委員

市町村立図書館の活性化のために県立図書館が非常に積極的に活動されている話を六戸町の事例で伺い、大変頼もしく感じた。県内の公共図書館が23館、ということは17市町村には図書館がないということだが、むしろ図書館の無い所こそ、例えば公民館なんかで支援を求めているのではないかと思うが、この辺はどうなっているか。

■県立図書館

図書館の無い市町村については、公民館に伺って働きかけ等を行っているが、職員が少なかったり、そもそも図書館の運営とは違う視点だということで難しさを感じている。公民館の運営自体もここ数年で変わってきており、なかなか活性化する方向に持って行けないと感じている。ただ、このような地域の方々にも県立図書館のサービスを受けて欲しいので、オンライン貸出サービスや遠隔地返却サービスなどの来館者サービスを

県内くまなく利用できる環境を整えている。

○委員

SNSを活用した情報発信に取組み、手応えを感じていると文学館の説明があった。10代、20代のフォロワーが少ないとのことだったが、FacebookとTwitterは活用の仕方が違うと考えている。Facebookは匿名性がなく、Twitterには匿名性があり、若い人たちはきちんと使い分けている。ここでのポイントはフォロワーを増やす事ではなく、見てもらう機会を増やすことだと思うので、FacebookだけではなくTwitterと両方で連携させ、一回の投稿で両方に発信するなど、発信の機会を増やすと良いと思う。

○委員

この短期行動指針のスローガンは「図書館活動の見える化、使える化を進める」ということだが、説明を聞いて市町村へのサービスは手厚いが、直接図書館に来る県民のための情報発信は足りないのではないか。展示とかサービスに関する情報発信を行うため、県立図書館としてのSNS利用はあるか。

■県立図書館

今現在検討中である。魅力的なコンテンツをどのように定期的に発信し、定期的に更新していくか等の課題もあるが、SNSでの情報発信が効果があるということが見えてきたので、今後検討して、対応していければと思っている。

○委員

今年の9月で開館90周年ということだが、記念カードの他にアピールするようなイベント等を予定しているか。

■県立図書館

色々な展示の中で、歴史を知ることができるような形でやっていく予定。今年大きな展示として相撲関係の素晴らしいコレクションを預かる機会があったので、3回ぐらいに分けて紹介して90周年記念展としていきたい。

○委員

資料2の7頁の成果と課題②に記載の、県職員のデスクに届ける貸出サービスがあることを初めて知った。参考にしたいのでサービス内容を教えて欲しい。

■県立図書館

見本にしたのは鳥取県立図書館の取組。本を届けて、自分たちの活動が行政の活動にも役立つことを内部に理解してもらおうということから始まった。

当館の行政支援サービスでは、県庁職員の方々が色々な施策に反映させる資料を見たいときに、定期的に事務連絡で本庁に行っているなのでその際に資料やコピーをお届けしている。